

## 天気晴朗

なれど

西田 雅昭  
NISHIDA, Masaaki

## 波高し



Visual Basic .NET 奮戦記

第2回

VB6.0で作ったフォームを使う

Illustration : Toshiyuki Ido

## level

1 2 3 4 5

## Technology Tools

- Visual Basic  
 Visual C#  
 Visual C++  
 SQL Server  
 Oracle  
 Access  
 ASP.NET  
 Other:

## Samples

・この記事で取り上げたソースコードおよびサンプルプログラムは、  
<http://www.shoetisha.com/mag/windev/>からダウンロード可能です。

我輩の名前は「頑固一徹」。これまでVisual Basic一筋だった我輩だが、上司の鶴の一声でVisual Basic .NETを使うハメになってしまった。

そこで今回は、しぶしぶVisual Basic .NETをインストールし、練習のために、簡単な顧客管理システムを作ろうとしたのだが、Visual Basicとの違いに手間取って、環境の整備をするだけで終わってしまった。これだから、新しい開発環境を勉強するのはゴメンなのだ。

VB6.0の資産とは  
別れがたし

開発環境を整えたので、とにかくメニューを作ろうと考えた。我輩は、システムを作るときは必ず、ログイン用のフォームと、処理年度を指定するフォームを付けている。これまで一度作成したものを使い回していたので、Visual Basic .NET (以下VB.NET) でも、もちろんこれらを使いたい。

VB.NETの経験がある後輩の東山君によれば、VB.NETはバージョン2003になって、VB6.0のコードを自動的にVB.NETのコードにアップグレードする機能が向上したらしい。さっそく、これを試してみることにしよう。

プロジェクト単位でないアップグ

レードできないようなので、わざわざVB6.0で「StartTest」というプロジェクトを作成し、以前に納めたシステムから、ログインのフォーム (Login.frm)、処理年度指定のフォーム (Nendo.frm) を取り込んで、ひとつのプロジェクトにまとめた。

また、この2つのフォームには、洒落た機能がいくつかあったのだが、すべて取り払って、シンプルなものにした。フォームのファイルをコピーして名前を変更したり、フォームのファイルの中の余計なルーチンを消したり、結構面倒だったが、なんとか作り上げ、グローバル変数のためのモジュールを追加し、VB6.0で実行して動作を確認した (図1)。



頑固一徹の

# 天気晴朗なれど波高し

## 注意

VB6.0のコードをVB.NETにアップグレードするには、VB6.0とVB.NET (あるいはVisual Studio .NET) の両方がインストール済みである必要があるようだ。また、Visual Basic .NET Standardには、アップグレードする機能が含まれていないようなので注意していただきたい。

なお、誌面の都合上、アップグレードするVB6.0プログラムのコードは割愛する。コードの詳細はサンプルプログラムを見ていただきたい。



## いざアップグレード!

このプログラムをVB.NETで読み込んでみよう。ひとまずVB.NETを起動して、スタートページで [プロジェクトを開く] ボタンをクリックしてみると、「プロジェクトを開く」ダイアログボックスが開く。ここで、VB6.0のプロジェクトファイルである「StartTest.vbp」を選択し、[開く] ボタンをクリックし

てみた。

すると、「Visual Basic アップグレードウィザード」ダイアログボックスが開く。最初の画面は単なる説明なので [次へ] ボタンをクリックする。続いて、アップグレードするプロジェクトの形式を聞いてくるが (図2)、「EXE」でよいのでこのまま [次へ] ボタンをクリックする。

次は、新しく作るプロジェクトを保存する場所の指定である (図3)。デフォルトは、VB6.0のプロジェクトのあるフォルダの下に、新しくフォルダを作成するようである。これも、このままで [次へ] ボタンをクリックする。

すると、新しくフォルダを作成するかどうか聞いてくるので、「はい」を選択する。次の画面では「時間がかかるかも」というメッセージが出るが、気にせず [次へ] ボタンをクリックする。

最後のページはアップグレード作業の進行の表示である。プログラムが短いいためか、あっという間にアップグレード処理が終了し、元のスタートページに戻った。

気がつくと、右上のソリューション

図1：アップグレードするVB6.0プログラム

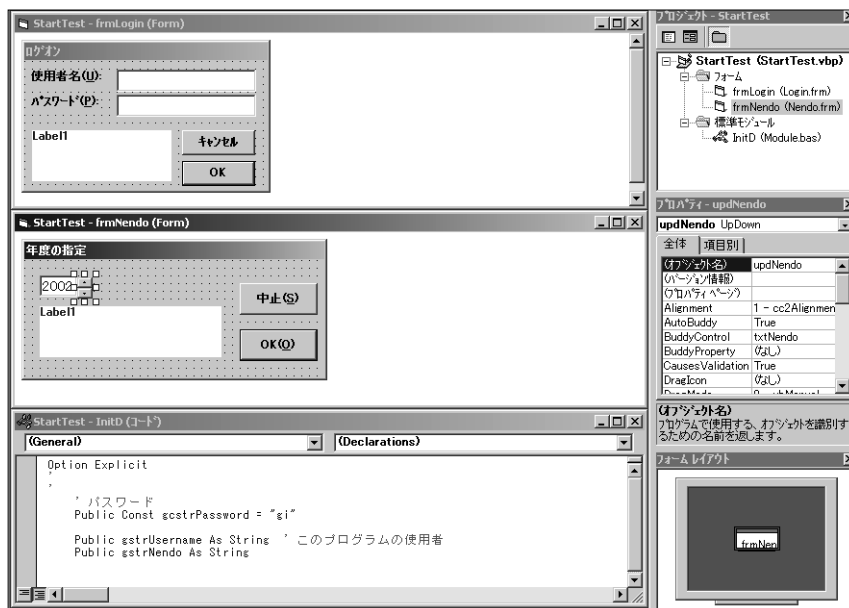


図2：アップグレードするプロジェクトの形式



図3：アップグレード後のプロジェクト保存場所

